

染色体・神経疾患の着床前診断・ 出生前診断について



講師：鈴木 伸宏 病院教授
名古屋市立大学 大学院医学研究科
産科婦人科学分野

日時：2023年6月6日（火）17:00～
場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟11階 講義室B

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンラインでの参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/82250938706>



国内の初産婦の平均年齢は30歳を超え、総出生数は2022年に約79万人と年々減少している。35歳以上の妊婦の割合は全妊婦の約30%を超えており、生殖補助医療による妊娠・出産は14人に1人と増加し、生殖・周産期医療や出生前診断に対するニーズは高まっている。着床前診断とは、受精卵、胚生検から遺伝学的に解析して診断することであり、出生前診断とは、先天性疾患の有無について胎児期に診断することである。

出生前診断・着床前診断の結果は、遺伝学的診断と画像診断を組み合わせることにより、正確な胎児診断へ導くことができ、分娩様式や分娩施設の選択から、新生児・乳児医療へ結びつけることができる。本セミナーでは、染色体・神経疾患の着床前診断・出生前診断について、遺伝性疾患の着床前診断・胎児診断、母体血を用いた非侵襲的出生前検査（NIPT）とその展望などについて述べる。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）
TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp